

インターバンクの声（2014年7月1日）

何年かに一度の割合くらいで相場が荒れることもある6月末日。今年は週末が絡むこともなく翌日すぐ7月に入るため静かな一日になるかと思っていたら、50～60ポイント程ではあるものの、最近の薄商い相場から考えれば結構動きが見られた欧米市場となった。日本時間の午後11時に発表された5月の米中古住宅販売成約は、市場予想を大幅に上回る結果となり、普段であればドルが全般的に買われてもおかしくない展開のはずだったが、まともにも上昇が見られたのは対円相場だけだった。それも僅かばかりの上昇だったので、丁度時刻と価格が重なったストライク101円45-50銭の1000本超と噂されていたオプション行使に関わる動きが主体だったのかも知れない。それよりもドル買いどころか、この時間帯の主要通貨は軒並み対ドルに対して上昇する展開となり、外人勢から月末と四半期末需要による取引が持ち込まれていた可能性もある。こうした通貨の中でも今日オーストラリア準備銀行の理事会がある豪ドルの上昇には注目だ。4月以降0.94ドル台で買い圧力が弱まる傾向が続いているが、理事会後の声明や中銀総裁からの発言次第では新たな展開を見せるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。